

尾瀬入山10万6922人

2020年、コロナ影響し最少

福島、群馬、新潟、栃木四県にまたがる尾瀬国立公園の二〇二〇（令和二）年の入山者は十万六千九百二十二人で、前年より十四万七千七十八人減少し

た。新型コロナウイルス感染症拡大による外出自粛などの影響により、統計を取り始めた一九八九（平成元）年以降、最も少なくなり、初めて十万人台となっ

た。環境省が十八日、発表した。これまで最少だった二〇一九年の二万四千四百五十八人。この期間は御池―沼山峠間のシャトルバスが運休した他、檜枝岐

五方所からの二〇二〇年の入山者は計三万二千四百五十八人。五、六月はゼロだった。この期間は御池―沼山峠間のシャトルバスが運休した他、檜枝岐

村が村内施設への営業自粛を要請していた。

尾瀬国立公園の入山者は近年減少しており、環境省は尾瀬沼ビジターセンターの新築工事など施設の充実化に取り組んでいる。担当者は「感染収束後を見据え、入山者の満足度を高め、リピーターを増やせるよう取り組みを進めたい」としている。